2019.07

vol.3

特集
加島希望の家

クローズアップ ゆうあい

誰もが自分らしく
安心して暮らせる
温もりのある地域社会を目指して

社会福祉法人加島友愛会
http://www.kashima-yuai.or.jp

加島友愛会 社会福祉レインボープラン（10年計画）第1次から第2次へ

私が理事長に就任した2009年の11月から、「住民主体の共生社会をめざして」第1次レインボープラン10年計画が始まった。

事業計画は福祉環境や利用者・住民ニーズの変化への対応による修正もあったが、10年後の今日、当初の事業計画項目のうち半ばを実現した。

新規事業では、介護付き有料老人ホーム・小規模多機能型居宅介護、障害者グループホームの移転と新設、障害者就労継続A型事業所新設、地域住民送迎事業、サービス付き高齢者向け住宅（本年8月開設予定）を立ち上げた。

当法人の事業用地の多くが大阪市有地だったが、法人所有地の確保をめざしリュミエール加島 1,635㎡、ヘルパーステーション トレフル239㎡を取得、旧加島人権文化センター2,084㎡、旧加島市営住宅1・2号館および加島老人福祉センター2,236㎡をさらに取得した。この間資産は2,618,570千円から3,457,222千円と1.3倍に増加、事業収入も1,019,292千円から1,944,799千円へ約2倍に増加となった。

2018年度の福祉サービスの実利用者数は1,055人に達し、従業員数も223人から本年5月には355人と増加し地域雇用に貢献している。

10年計画の未達成の事業は、ひとつには福祉実態調査がある。2009年時点で淀川区内の知的障害者が907人、淀川区以外の施設利用者193人、加島・三津屋地区65歳以上4,989人の生活実態や福祉ニーズを調査し事業計画に反映する予定だった。

『調査なくして発言権なし』という言葉があるが、しっかりとした市場調査が欠けていたため有料老人ホームの入居率が伸びず、累計赤字は開設3年で164,311千円にもなり、小規模多機能事業は閉所に追い込まれた。

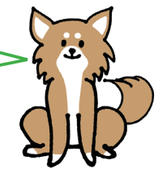
従業員を対象とする企業内保育所、介護タクシー、児童虐待防止と子育て支援を目的とする児童養護は調査企画の段階で留まっている。

人材確保と人材育成については、医療・福祉の専門学校等の誘致も視野に重要課題としていたが、深刻な人手不足のため人材確保に追われ余裕をもって人材育成を図るまでには至らなかった。特養加寿苑では不慮の事故が起きる危険性を感じ、昨年10月から入所制限をせざるを得なかった。

第2次レインボープランは、この10年の成果と課題をしっかりと分析しなければならない。そして加島・三津屋地域全体をどのような地域社会に発展させるのか具体像を示して、科学的で現実的な中長期計画が求められる。

本年８月オープンの
サービス付き高齢者向け住宅
「ファミール・シャルレ」

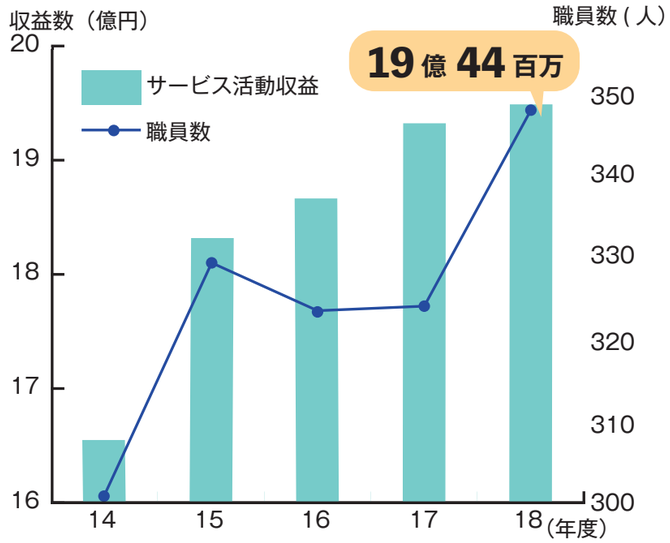
「ファミール・シャルレ」の詳細が気になる方は9-10ページをご覧下さい。



加島のあかりちゃん

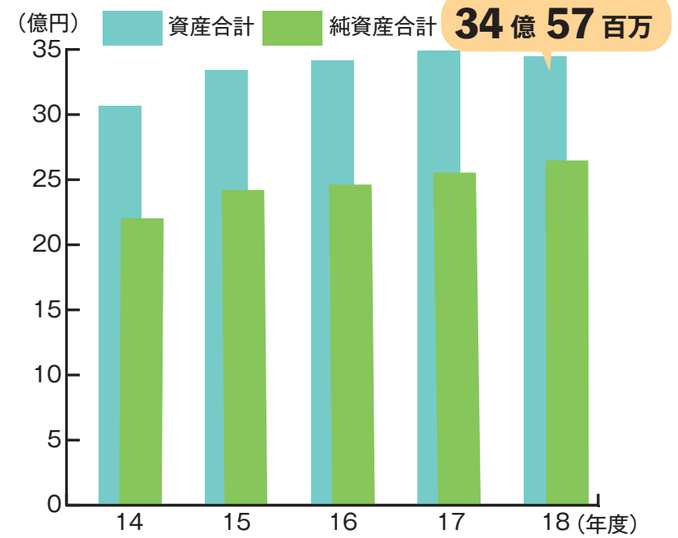
2018年決算ハイライト

サービス活動収益と職員数

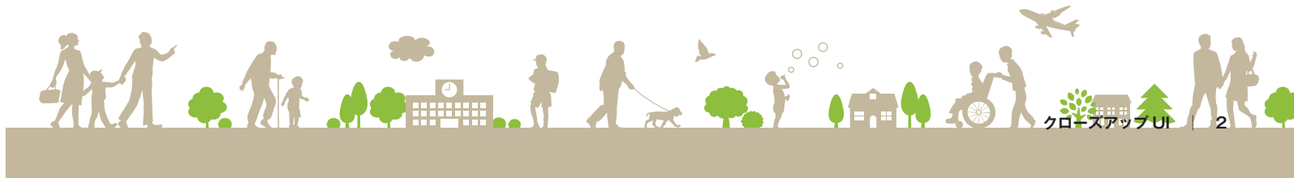


利用者への支援活動（サービス）による収入であるサービス活動収益は、加寿苑の入所制限による減収はあるものの、２０１８年度報酬改定による介護度・障害支援区分の重度の人への対応評価等に対し、加島友愛会は合致した運営がなされており介護報酬等の収入が増加し、過去最高額の１９億４４百万円となっています。

資産合計 / 純資産合計



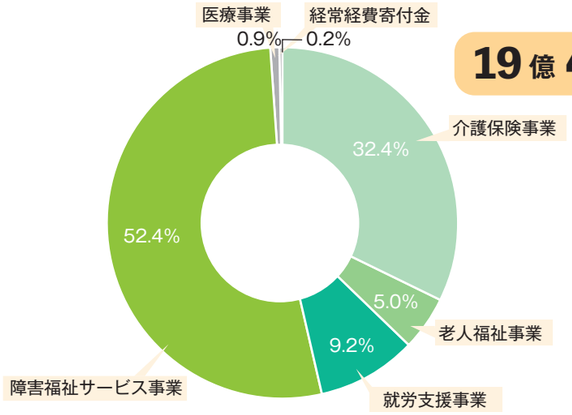
資産合計は３４億５７百万円となります。資産合計より負債を差し引いた純資産は、負債の減少により過去最高額の２６億５４百万円となっています。

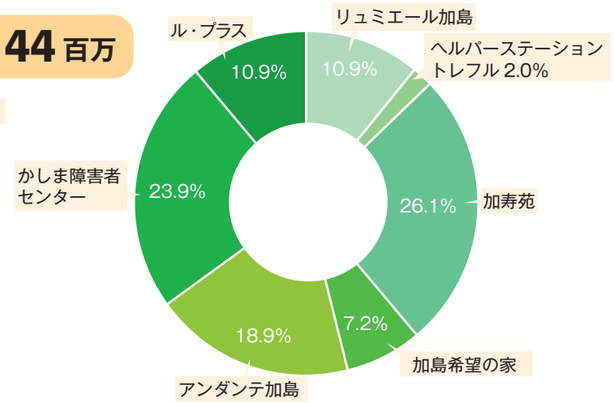


2018 年決算ハイライト

法人収入

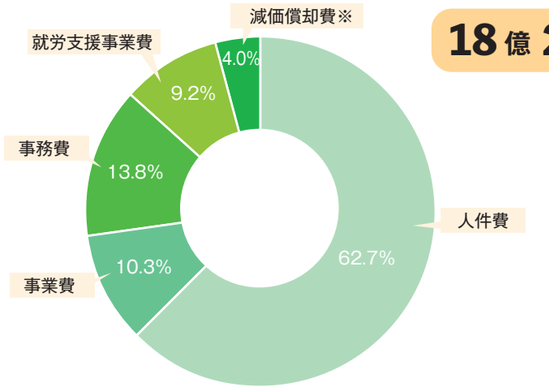
19 億 44 百万

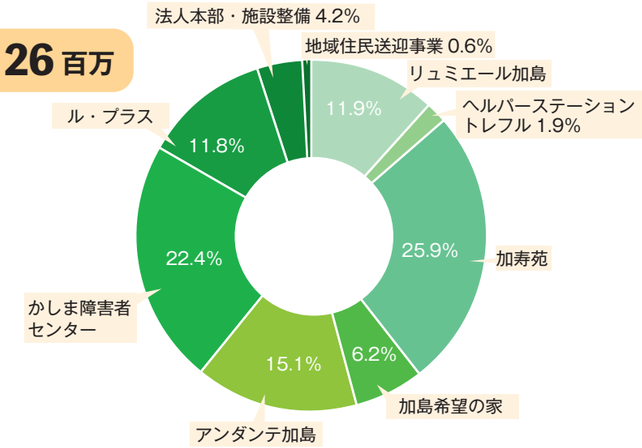




法人支出

18 億 26 百万





※国庫補助金等特別積立金取崩額と相殺後の金額です。

当期活動増減差額

1 億 24 百万

当期活動増減差額とは、一般企業の当期純利益に相当します。

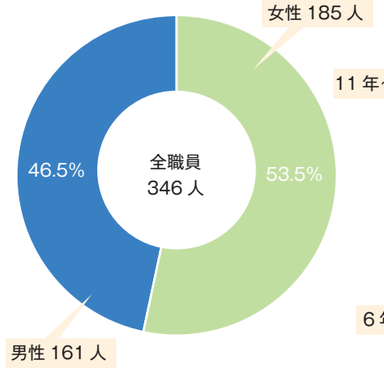
当期活動増減差額 ＝ 経常増減差額　＋　特別増減差額

経常増減差額とは、一般企業の経常損益に相当します。サービス（支援）による収益と費用および
サービス以外の収益と費用（借入金利息、補助金・受取利息、利用者等以外の給食等収益）
特別増減差額とは、固定資産の取得・廃棄等、および設備資金の借入・調達・返済等の収益と費用

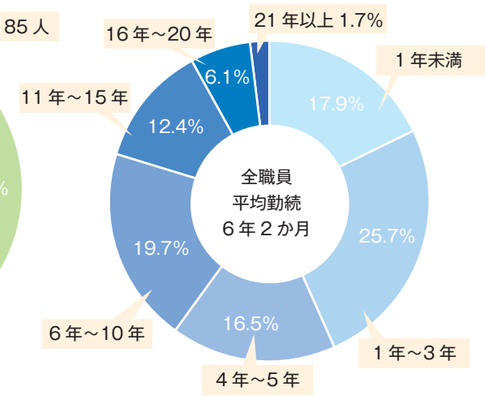
詳細は別紙決算書をご確認ください。

基礎データ・職員プロフィール

男女比



勤続年数

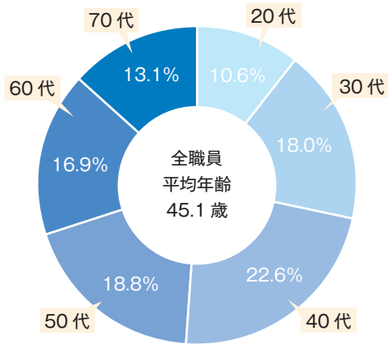


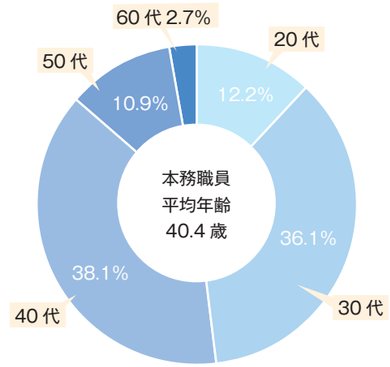
資格手当支給者数

145 人

資格種別	保有人数
ホームヘルパー1級	2
介護支援専門員	12
介護福祉士	60
看護師･准看護師	7
管理栄養士･栄養士	4
社会福祉士	6
社会福祉主事	25
精神保健福祉士	5
保育士･幼稚園教諭	8
教諭･その他	16
計	145

年　齢





障害者の雇用

46 人

加島友愛会の障害者雇用数は 46 人です。障害者の雇用率は法定雇用率が 2. 2% に対し、加島友愛会では 21. 6% となっています。
この高い障害者雇用率は豊中市で運営する就労継続支援 A 型事業所ル・プラスの障害者雇用増進などによるものです。

法人障害者雇用内訳	
高齢部門	4人
障害部門	4人
A型事業所	38人

Link から 2018 年 3 月に加寿苑へ就職しました。

加寿苑での仕事では、私が利用者さんの部屋に入ると、「三木さんはいつも挨拶してくれるから嬉しい」と言われ私も嬉しくなります。また、私は打楽器を使ってのレクリエーションが得意でみなさんから好評です。

三木 遙
（みきはるか）
加寿苑　清掃・雑務
2019 年度加寿苑就職

外国人の雇用状況

4 人

2017 年度から受け入れを開始し、毎年 2 人を招き入れ、2018 年度はベトナム人 留学生 2 人を招き入れています。
3 年間の就労・研修の後に介護福祉士の資格取得を目指して、仕事と勉強に励んでいます。

各事業の事業報告および詳細は、法人ホームページ 〉情報公開〉2018 年度事業報告をご確認下さい。

加島希望の家は ノーマライゼーションの実現に向けて 障害者の自立生活と社会参加をサポートします。

本誌 vol.3 では加島友愛会の障害福祉サービスの中から加島希望の家について紹介します。加島希望の家は基本理念として、「利用者の権利擁護」「一人ひとりのニーズに基づく個別支援」「地域福祉の拠点を目指す」を挙げています。
誰もが自分らしく生活できる地域社会を目指して、利用者の皆さんに落ち着ける環境の提供、生き生きとした日常生活を送っていただけるような支援や福祉サービスを提供します。

加島希望の家の状況※ 2019 年 5 月 31 日現在

定員	利用者平均年齢	平均障害支援区分
50 名	40.6 歳	5.5
登録者数 55 名　男性 36 名、女性 19 名	最高年齢 58 歳	区分6（最重度）は 30 名、区分5は 20 名

「やりがい」「楽しみ」「昼食」が 利用者の三大ニーズ

――現在、利用者が加島希望の家に求めているものは何でしょう。

藤原　利用者の皆さんが加島希望の家を利用したいという要素は大きく分けて 3 点あります。1 点目は軽作業やアルミ缶回収などの仕事をすることによる「やりがい」。2 点目は余暇活動やレクリエーションなどの「楽しみ」。3 点目に「昼食」です。

――利用者はどんな点にやりがいを感じるのでしょう。

藤原　利用者一人ひとり、やりがいの感じ方は違います。仕事をしているという認識を持っている方もいれば、そうでない方もいます。仕事を達成したことで満足を感じる方もいれば、仕事ではなくパズルをしているという認識で「これだけできた」と満足されている方もいます。わずかながら報奨金として作業工賃をお渡ししているのですが、ある程度お金の理解がある方と、そうでない方もいます。ただ、お金がわからなくても、職員から「これだけがんばったから今度みんなでお出かけしよう」とか、一人ひとりの気持ちに合わせながら「やりがい」を感じてもらえるようにしています。

加島希望の家の 生活介護って？

生活介護事業とは、障害者支援施設や生活介護事業所等における日中時間帯の障害者総合支援法に基づく障害福祉サービスです。

① 食事・排泄等の介護
② 調理・洗濯・掃除等の家事支援
③ 生活等に関する相談・助言
④ その他必要な日常生活上の支援
⑤ 創造的活動・生産活動の機会の提供
⑥ 身体機能や生活能力の向上の援助

加島のひかるくん

食事の様子①

送迎サービスの風景④

企業からの請負作業の場面⑤

ボールを使ったリハビリの様子⑥

グループに分け個別支援 自閉症の方も安心できる 空間作り

――楽しみもやはり人それぞれなんでしょうね。

藤原　そうです。個別に支援がしやすいように、登録者 55 名を 4 つのグループに分けています。そしてレクリエーションなどの余暇活動は基本的にグループごとに企画しています。グループ分けは、身辺介助が必要なグループ、比較的自立されているグループ、そして自閉症をともなうグループが 2 つあります。

――かなり専門性が求められますね。

藤原　自閉症の方には障害特性に合わせたサポートが必要です。例えば仕事と休憩の場所を分けています。構造化といって、その人が理解しやすい環境をつくる工夫の1つなのですが、それぞれの場所に行くことにより今何をしたらよいかが解るような空間作りをしています。また物事の見通しを持てるよう、視覚的に情報を伝える工夫もしています。例えば次に何をすればよいか解るようにカードなどのツールを使うのですが、文字の理解が難しい方には写真や絵のカードを見せ、カードが難しい方には現物を渡します。外出の時は帽子を、食事の時はお箸を渡すといった具合に。

――昼食にはどんな工夫を?

藤原　温かいものは温かいうちに食べられるよう盛り付けし、少人数単位で食べます。利用者のリクエストメニューや月に一度の選択メニューもあります。（コラム参照）

18 歳～ 60 歳の年齢幅 変化するニーズ考慮し支援

――今後の課題や展望は?

藤原　加島希望の家がスタートした当初からの利用者は 60 歳に近い方もいます。また、この 4 月から入った方は 18 歳。年齢の幅への対策としてプログラムの再編も求められています。これまでは作業メインで余暇をつなげる形でしたが、今後は余暇メインや生活メインの選択、加えて高齢化した家族とどのような生活をするのかという視点でのプログラムも必要と考えます。また、利用者の高齢化にともない体力面や健康面も考慮しなければなりません。

軽作業、リハビリ、アルミ缶回収、音楽療法など、活動内容は大きくは変わりませんが、活動の仕方、参加の仕方は各人に合わせて変えていきます。

藤原佐一
加島希望の家
施設長
サービス管理責任者

プロフィール
藤原佐一（ふじわらさいち）　福祉との出会いは高校時代、福祉施設を見学した際、利用者とかかわったことがきっかけだった。大学を卒業してすぐ加島希望の家に入職。以来、勤続 22 年。2018 年から施設長。長年、福祉の現場を経験してきたが、原点は今も変わらない。「何か困っている方がいれば、自分ができるお手伝いをする」「みんなを笑顔にしたい」と思い続けてきた。趣味は銭湯巡り。

Column 1　管理栄養士 松本彩

お昼ご飯に魅せられて「今日も行くって！」

利用者のモチベーションアップに大きな貢献をしているのがお昼ご飯。

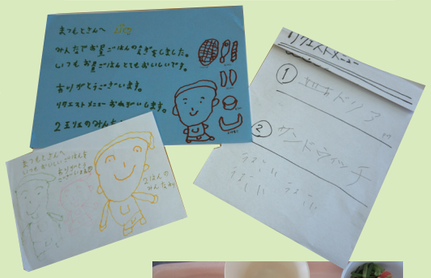
調理の基本方針は手作り。既製品・冷凍食品・冷凍野菜などはなるべく使わないようにしていると管理栄養士の松本彩さん。コロッケやハンバーグも手作りだ。

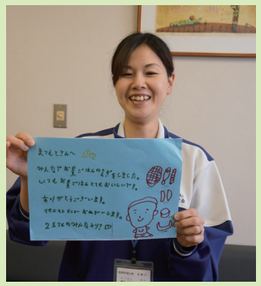
家庭でも大変な手作りを約 70 人分調理する厨房は大変なことと想像がつく。お米は減農薬の特別栽培の産直米。料理は適温で食べられるように配慮している。食堂では全員で一斉に食べるのではなく、利用者の特性などに配慮して時間を決めて少人数ごとに用意して食べる。そうすることで一人ひとりに適した形で食事を提供することができる。

また 2 つのメニューから 1 つ選べる選択メニューがある。主菜・デザートを月に 1 回ずつ行っている。前もって写真つきでメニューを選んでもらっているが選択メニューの当日にはその日の気分で選び直す方もいたり迷いながら「こっち!」とみなさんメニュー選びを楽しまれている。

日々の献立に利用者からのリクエストメニューを取り入れている。余暇活動などで料理の本や雑誌などを見て食べたいメニューを書いて松本さんの所に持ってこられる。そのリクエストに応えられるように日々アイディアを練っている。

ある日のリクエストメニュー




利用者からの感謝状

リクエストを取り入れたオムライスとチキン南蛮のメニュー

仕事にやりがい、出産後も職場復帰
チームアプローチが産休・育休取得にもプラス

今回、ご登場願ったのは加島希望の家の女性職員３名。
共通するのは全員が産休・育休を活用し、その後も長く仕事を続けておられること。
かたや、現場のコアメンバーとして成長をされている。
産休・育休を取り巻く事情、仕事のやりがいなどについて語っていただいた。

自然に取れた産休・育休 日ごろから引き継ぎを意識

――皆さん出産後、子育てのかたわら、長年にわたりお仕事を続けてこられています。産休・育休の制度はあってもなかなか利用しにくい、職場復帰もしにくい報道等もあるなかで、皆さんの場合はどうでしたか?

酒井　この職場で産休・育休を利用したのは私で３人目だったと思うのですが、私の前に産休を取った方も自然に取っていたので、取りにくいという雰囲気はなかったですね。現施設長等の男性スタッフも同年代が多く、お子さんが生まれたばかりの人も多く、理解があったと思います。

籔下　先輩方が産休・育休を取られて復職された姿を間近で見させていただいていたので、自然に取らせていただきました。

――産休・育休を取るときは、誰かに業務を変わってもらわないといけませんが、その辺はスムーズにいきましたか?

酒井　加島希望の家では独りで仕事をするのではなく、利用者をみんなで支援していくチームアプローチが基本です。それに、今日突然休まざるを得なくなったときでも、常に自分がいなくても大丈夫なように考えて仕事していましたから、その辺はスムーズでした。特に産休・育休は時期もわかっているし、日ごろから引き継ぎは意識していますから困ることはありませんでした。

――栄養士さんはお一人ですが、どう引き継いだのですか?

松本　私の場合は施設に栄養士がいなかったので栄養業務は委託会社に引き継ぎをしました。献立作成は、私の献立を主に使用していただいたので料理を作る厨房の方や利用者のみなさんの戸惑いは少なかったのではないかなと思っています。

――産休に入るタイミングで不安になることはありませんでしたか?

松本　前もって産休に入る時期はわかっていたので、その時期に合わせて仕事の調整をしていたから困るということはありませんでしたが、産休に入る前に引き継ぎなどで不備がないか不安でした。復帰後は子供の急病で休まなければいけない時はどうしようと不安でしたが、周りの理解があるので子育て面でもとても助かっています。

利用者と関わるなかで成長 仕事の魅力とやりがいを実感

――ところで、お仕事のどういうところにやりがいを感じますか?

籔下　学生時代、実習でここへ来て初めて障害のある方とかかわったのですが、スタッフが笑顔で利用者と向き合い、利用者の生活をいかに豊かなものにできるか真剣に考えている姿勢に感銘を受けました。「伝える・伝わる」私たちの当たり前の世界からは、見つけられない視点や物事を捉える力、新たな気づきを得ながら、自分自身も成長させて頂けるところにこの仕事の魅力とやりがいを感じます。

――成長しているという実感はありますか?

籔下　ものの見方や考え方に関して、一つひとつ真剣に捉えられるようになってきた気がします。人前で話すのも苦手だったのですが、利用者との関わりのなかで話す機会も増え、その点でも成長させていただけているという実感はあります。

チームアプローチで考え 皆で充実した個別支援目指す

――先ほど話に出たチームアプローチですが、もう少し詳しく…

酒井　よりきめ細かい支援ができるように利用者一人ひとりに個々の担当がついています。ただ、その利用者を支援するにあたっては、担当スタッフ一人で考えるのではなく、会議などを通してみんなで情報を共有しみんなで考えるようにしています。また、他グループの方と一緒に過ごす時間や場所や活動もあるので、他グループのスタッフとも連携を取って支援を進めなければいけません。今日は寝不足らしい、昨日調子が悪かったらしい、今日はよく大声を出す、ちょっと落ち着いてきたなど、細かいこともみんなで共有しています。そして大きな事故に発展しそうな懸念のあるとき、緊急度の高いときなどは、全員にメモを回し、全員が読んだか確認できるような態勢をとっています。「すべての利用者をすべてのスタッフで支えていきましょう」と声をかけながら支援を進めています。

――他職種との連携もあるのですか?

酒井　例えば栄養士さんとなら食事の提供の仕方ですね。食べやすいように器やスプーンの形を変えてもらうとか、取っ手付きのとか、ワンプレートでとか、刻み方とか盛り方とか、ほんとに無理を聞いていただいています。（笑）

松本　例えば丼物に手を付けられない方には「牛皿」定食のようにご飯とおかずを分けるとか、チャーハンをおにぎりにするとか、この食材は切って欲しいとか、今回はこのままでもいいですとか、当日の利用者の体調などによって提供の仕方を変えて欲しいと言ってこられると、私が厨房の方に伝えます。私も食事は食べてもらいたいし、厨房の方も残してもらいたくないという思いは同じなので、快く受け入れていただいています。

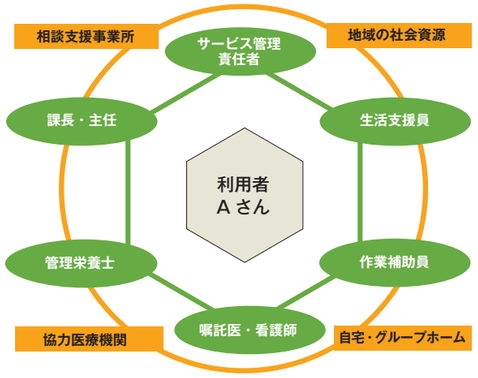
――そうしたことが「個別支援」をより豊かにするのですね。

酒井　確かにそうですね。そして食事や作業や日常生活の過ごし方など、行き当たりばったりで支援するのではなく、今この方がどういう状況にあって何が問題でどうするためにどういう支援をすべきかについて個別支援計画書という形で出します。さらに、やってみて終わりでなく、振り返り、次はどうしていこうと考えることを大切にしています。

――今後の支援のあり方についてはどうお考えですか?

酒井　私も長年この職場にいますが、利用者の年齢も家族の年齢も上がってきました。利用者の生活は365日24時間あるので、当然ここだけではカバーしきれません。休日にヘルパーを利用している方も昔に比べ増えてきました。そうした他の事業者とも連携を取りながら、よりよい支援のあり方を考え、取り組んでいきたいと思います。

加島希望の家のチームアプローチのイメージ図



利用者Aさんに関わる人と環境

利用者Aさんのニーズに合わせた支援を検討するため、サービス管理責任者を中心にケース会議を実施。会議後は、職員全体で情報を共有し、現場での支援を行う。また、栄養士、嘱託医・看護師の助言をもとに食事提供や健康面の管理も行なっている。
必要に応じて他の福祉事業所や医療機関等と連携することで地域の社会資源の活用を促進している。

加島希望の家 女性職員 産休・育休経験者
6名/8名中

加島希望の家の現女性職員の75%が産休・育休を取得。16年間で延べ14名の職員が産前産後・育児休業を取得。

生活支援員の籔下さんの１日のスケジュール

6:00	起床／朝食作り 自分の準備
6:30	子ども起床 朝食　子どもの身支度
7:15	自宅を出発
7:30	保育所　送り
9:00	出勤　利用者の受け入れ

9:45	生産活動支援
12:00	昼食
13:15	生産活動支援

16:10	業務記録・報告会・明日の準備
17:00	保育所　迎え（祖母）
17:15	退勤
18:45	祖母宅へ子どもの迎え （両親どちらか早い方が）
19:00	帰宅 夕食準備 子どもとパパ入浴
20:00	夕食・入浴・翌日の保育所の準備 子どもとのんびりタイム 洗濯（パパ）
21:30	就寝

酒井夕姫
（さかいゆうこ）主任生活支援員。専門学校卒業後、1996年、加島希望の家に入職。2018年から主任として現場を統括し、チームを引っ張っている。仕事をしながら結婚、出産して現在、中学３年生の息子と小学６年生の娘の子育て中。振り返ると人生の半分は加島希望の家でお世話になっている。趣味は読書。

籔下真生
（やぶしたまき）生活支援員。専門学校の実習場所として加島希望の家を紹介されたことがきっかけで障害者支援に深く関心を持ち、学生時代はグループホームの世話人を経験。卒業後、2007年、加島友愛会に入職。2017年に産休・育休を経て職場復帰し、チームリーダーとしても活躍。現在、３歳の娘の育児に奮闘中。趣味は卓球。

松本彩
（まつもとあや）管理栄養士。専門学校卒業後、委託給食会社、特別養護老人ホームを経て2009年、加島希望の家に入職。主に加島希望の家とかしま障害者センターの昼食の献立作成等の栄養管理を行っている。在職中、２回の産休・育休を取得後、職場復帰し、現在、７歳の息子と３歳の娘の育児に奮闘中。趣味はパン作り。

Famille chaleureuse

サービス付き高齢者向け住宅
ファミール・シャルレ

福祉のプロがサポートする 先を見据えたニューライフ

第1次入居 募集開始

2019年 8月 オープン

月額料金 13万円～

大阪市淀川区 加島１丁目

- 全室南向き
- 北新地まで 15 分
- 駐車場あり
- 無料定期送迎あり（加島駅・十三市民病院・十三駅行き）
- 二人入居可能
- ペット応相談

- ■JR 東西線加島駅①番出口より徒歩６分
- ■大阪シティバス 97 号「神崎橋」「加島駅」行、「加島中」停留所より徒歩４分
- ■阪急バス「加島駅」行、「加島中」停留所より徒歩４分

特別浴室

居室Ａタイプ（50 ㎡）

全戸キッチン・風呂・トイレ付き

居室Ｂタイプ（25 ㎡）

食 堂

談話コーナー

写真やイラストはイメージ用のものです。施設は工事中であり、実際の施設とは異なる場合があります。

入居・見学・体験入居の お問い合わせ・ご相談は

社会福祉法人加島友愛会・ファミール・シャルレ　0120-991-707 TEL.06-6101-6601

【施設概要】●住所／大阪市淀川区加島1丁目38番地●施設類型／サービス付き高齢者向け住宅　●居住の権利形態／建物賃貸借方式　●利用料の支払い方式／選択方式　●入居時の要件／入居時自立・要支援・要介護　●介護保険／在宅サービス利用可　●居宅区分／全室個室

誰もが自分らしく安心して暮らせる温もりのある地域社会を目指して

社会福祉法人
加島友愛会

〒532-0031
大阪市淀川区加島 1 丁目 60-36
TEL.06-6101-6601 FAX.06-6308-7299
e-mail 1991@kashima-yuai.or.jp
URL http://www.kashima-yuai.or.jp

ホームページ
はこちら！

加島のあかりちゃん

❶かしま障害者センター

〒532-0031 大阪市淀川区加島 1 丁目 60-36
TEL.06-6308-7206 FAX.06-6308-7299

むつみ（生活介護事業・就労継続支援事業 B 型）
e-mail mutsumi@kashima-yuai.or.jp

地域生活支援部（障害者グループホーム）
e-mail kashima-chiikiseikatu@kashima-yuai.or.jp
●加島苑●セッション●チューリップ●あさがお
●カナリヤ●うぐいす●ひのき●トレフル

Link
（就労移行・就労継続支援事業 B 型・自立訓練・就労定着支援）
TEL.06-6308-7210 FAX.06-6308-7220
e-mail link@kashima-yuai.or.jp

障害者就労支援事業部
TEL.06-4805-2485 FAX.06-6308-7220
e-mail kashima_jc@kashima-yuai.or.jp

COCOLO（相談支援・地域活動支援）
TEL.06-6308-7209 FAX.06-6308-7220
e-mail cocolo@kashima-yuai.or.jp

❷ル・プラス（就労継続支援事業 A 型）

〒561-0843 大阪府豊中市上津島 1 丁目 4-3
TEL.06-6151-3701 FAX.06-6151-3810
e-mail re.plus@kashima-yuai.or.jp

❸加寿苑　特別養護老人ホーム

●特別養護老人ホーム●ショートステイ●診療所
●ケアプランセンター●デイサービスセンター
〒532-0031 大阪市淀川区加島 1 丁目 34-8
TEL.06-6305-0711 FAX.06-6305-0773
e-mail kajuen@kashima-yuai.or.jp

淀川区西部地域包括支援センター
TEL.06-6305-0737 FAX.06-6305-0738
e-mail yodogawa-seibu@kashima-yuai.or.jp

❹アンダンテ加島（施設入所支援・生活介護事業）

〒532-0031 大阪市淀川区加島 1 丁目 36-46
TEL.06-4806-6780 FAX.06-4806-6781
e-mail andante@kashima-yuai.or.jp

❺加島希望の家（生活介護事業）

〒532-0031 大阪市淀川区加島 1 丁目 49-21
TEL.06-6390-5666 FAX.06-6302-2551
e-mail kibou@kashima-yuai.or.jp

❻リュミエール加島　介護付有料老人ホーム

〒532-0031 大阪市淀川区加島 4 丁目 16-35
TEL.06-6308-7788 FAX.06-6308-7799
0120-087-322
e-mail lumiere@kashima-yuai.or.jp

❻ヘルパーステーション　トレフル

〒 532-0031 大阪市淀川区加島 4 丁目 16-34
高齢者部門● TEL.06-6308-7797
FAX.06-6476-7185
e-mail trefle2@kashima-yuai.or.jp
障害者部門● TEL. FAX.06-6476-7185
e-mail trefle@kashima-yuai.or.jp

❼サービス付き高齢者向け住宅 ファミール・シャルレ

19 年 8 月
オープン

〒532-0031 大阪市淀川区
加島 1 丁目 38-20
TEL.06-6101-6601
0120-991-707

企画　法人機関誌検討委員会
蓬田高広
西岡剛
真嶋広匡
谷口哲夫
市坪正二
森本亜紀彦
安間ゆか
芝谷佳代子
内田信也
編集協力　新島洋
デザイン　桐田博子
撮影　中野沙央里
印刷　（財）浪速振興会